

## 第 11 回白神山地世界遺産地域科学委員会 議事要旨

開会挨拶

**東北森林管理局 大貫次長**

- ・白神山地の最近の動きとして、ニホンジカ対策が重要になってきている。
- ・白神山地周辺では平成 26 年に 10 件のニホンジカの確認情報が寄せられている。昨年秋、秋田、青森の両県で遺産地域の近くにおいてセンサーカメラで撮影されるなど、遺産地域への侵入が一層危惧されている。このため平成 27 年度は撮影カメラの設置台数を、環境省と林野庁合わせて 75 台設置し、監視の強化を図るなど実態の把握に努めてきている。今後も関係機関が協力し、幅広く生息状況を収集しながら、世界遺産の価値を守るための対策検討に役立てていきたい。

委員長挨拶

**中静委員長**

- ・4 つ議題があり、モニタリングの結果報告、最近非常に大きな問題になっているニホンジカの対策の問題、入山利用に係る問題、ナラ枯れの問題をお願いしたい。

議題 1 資料 1-1～3 (モニタリングに関する報告) 資料説明

**東北森林管理局 加賀調整官**：<資料 1-1～2 の説明>

- ・保護林のモニタリングの部分で、平成 28 年度以降の欄が、今回 2015、2016 年という記載に変わっている。2015 年度は津軽森林署管内で青森側の調査になる。2016 年度は米代西部森林管理署管内、秋田側での調査になる。実施年度については同じような形での実施になる。
- ・標高別調査について、調査頻度の欄が今回は 5 年毎という記載に変わっている。
- ・植物相の調査について、今回は未定という記載に変わっている。
- ・区分ⅡB-2-(1)-⑧の調査実施について、2014 年未実施という形で削除している。同じ欄について、平成 28 年度以降の実施という形で記載が変わっている。区分ⅡB-2-(2)-①の調査の部分は終了という記載になっている。
- ・原生的ブナ林の長期変動調査について、青森県と秋田県にそれぞれ固定調査区を設置しており、毎木調査を 5 年毎の他、倒壊林冠発生木調査、最深積雪深調査、林内気温調査、入り込み利用調査、青森側を継続して行っている。入り込み調査の今年度の 1 回目の点検結果では、7 月に 184 人の入り込み者が確認されている。
- ・定点カメラによる哺乳類調査について、平成 27 年度は自動撮影カメラを 50 台設置した。青森側と秋田側で 25 台ずつ設置している。27 年度設置したカメラでのニホンジカの撮影は今のところ確認されていない。今後、確認された場合は迅速に情報発信をしていきたいと考えている。入り込み利用調査でも、11 台設置して 8 月始めに画像を確認したが、ニホンジカの確認はされていない。
- ・「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」による調査について、広域監視体制を確立するため、平成 26 年度 6 月から東北森林管理局管内全域を対象にチェックシートを用いた形で生息状況の調査を職員等により継続している。

**東北地方環境事務所 藤井保護官：**＜資料 1-2 の説明＞

- ・平成 10 年度から毎年継続で白神山地気象観測調査行っている。場所は世界遺産センターのある西目屋館、秋田県側の二ツ森、青森県側の世界遺産地域核心地域に入る櫛石山の 3 カ所で、気象観測のステーションを設置し気象観測を実施している。装置が少し古くなっており、不具合なども生じているので、機器のメンテナンスや更新も含めて調査を続けているところである。
- ・ブナ林のモニタリング調査について、櫛石山に 3 サイト設定をし、毎年調査を実施している。例年 6 月からサイトにリタートラップを設置しているが、平成 27 年度 6 月は白神ラインの通行止めが入ることができず中止、7 月の調査は大雨警報が出ていたため中止となった。9 月に調査に入るが、リタートラップを設置して、毎木調査や低木調査、実生・ササの調査とともに実施する予定となっている。
- ・ブナ林のフェノロジー調査について、櫛石山の気象観測ステーションに定点カメラを設置して、本年度も継続して調査を実施している。
- ・中・大型哺乳類の定点カメラ調査では、平成 26 年度に引き続きニホンジカの監視も含め、中・大型哺乳類の状況把握を実施している。25 台設置したが、シカは撮影されていない。

**青森県 比内総括主幹：**＜資料 1-2 の説明＞

- ・松くい虫及びナラ枯れ被害木の早期発見、早期駆除を実施するため、松くい虫防除監視を 5 月から 11 月に実施している。
- ・航空写真撮影による異常木の探査で、青森県側、秋田県側を 9 月に撮影予定である。
- ・県防災ヘリコプターによる上空探査を 6 月 3 日、7 月 10 日に実施した。9 月 2 日、9 月 24 日も実施予定である。

**秋田県 金沢主査：**＜資料 1-2 の説明＞

- ・松くい虫被害及びナラ類集団枯損の早期発見、早期駆除を図るため、県の防災ヘリコプターで上空からの調査を行っている。平成 27 年度については 9 月 4 日に調査実施予定である。
- ・上空からデジタルカメラとデジタルビデオで撮影を行い、その調査結果をもとに現地踏査を行い、枯損木等を発見した際には原因等を調査する。

**東北地方環境事務所 藤井保護官：**＜資料 1-3 の説明＞

- ・櫛石山の気温について、例年の観測結果と著しい変化は認められなかった。降雨量については、雨量計にごみの詰まりが確認され、6 月から 10 月まで正確な測定ができなかった。平成 27 年度は、詰まりが生じない雨量計に交換し実施している。積雪深の推移は 2014 年から 2015 年までの積雪量で、櫛石山では多い時で 4m 程度の積雪が確認されている。2015 年の 5 月 17 日頃まで積雪が確認された。
- ・二ツ森の降雨量は 8 月に 554.5mm という雨量が観測されている。積雪深も櫛石山と同様、4m を超える積雪が確認されており、5 月 26 日頃まで積雪が残っていたという観測結果になっている。
- ・2013 年度、ブナの種子の結実量が多く観測された。この年は健全な種子が落下したため、2014

年、当年生のブナの実生が3サイトで増加した。

**議題1 資料1-1～3 質疑応答**

**田中委員**

- ・シミュレーションでは温暖化の影響があると言われているが、実際に現場ではどれが温暖化の影響なのか分からないという状況にある。温度は過去100年間に全国平均で1℃上がり、積雪も低地で減少している。白神のブナにとっては適さない環境になってきている。
- ・ただ、森林に入ってみると非常にいろいろなものがあり、何が起きているのか分からないというのが現状であるが、モニタリングを取ると見えてくるものがあるのではないかな。
- ・種子落下の推移は、2005年以前は全般に落下量、健全種子ともに多い。しかし、2006年以降になると健全種子が減少している傾向にある。それに伴い、定着する実生数も減少しているのではないかな。影響が現れやすい種、実生で具体的な影響があるのかどうか明らかにしてもらいたい。

**檜垣委員**

- ・全域の地表被覆・特殊地形の把握の通年で「10年毎又は大規模災害時に実施」と書いてあるが、ここをどうしたらいいのかな。秋田県北部で豪雨があり、崩壊や土砂流出が出ている。平成27年も融雪期に青森県側に強い雨が降り、河川で土砂が出ている状況だが、大規模災害時は事務局の方で状況を見て判断するのか、どういう時に調査するのか。

**東北森林管理局 関口部長**

- ・基本的にこうだというものはない。委員会の助言を受けながら判断するイメージ。

**檜垣委員**

- ・基本的に事務局側が判断するのか。

**東北森林管理局 関口部長**

- ・最終的にそうなると思う。

**檜垣委員**

- ・平成25年度の大雨で、周辺地域で林道が崩れたが、その場合のモニタリングはなかったのかな。

**東北森林管理局 関口部長**

- ・大雨に関してのモニタリングはやっていない。

**由井委員**

- ・ブナについてウエツキブナハムシ、ブナアオシャチホコの大発生が継続していて、枯れそうだという報告がどこかに載っていた。白神山地において、ブナの病害虫の監視はどのようにしたらいいか、あるいはされているか。
- ・リタートラップをやった場合、害虫の蛹や抜け殻、幼虫が落ちてくることがあるが、その数も保存して数えられているのかどうか。

**東北森林管理局 加賀調整官**

- ・被害について、白神山地は定期的に巡視をしており、被害があった場合は署を通じて報告してもらおう。ナラ枯れの被害に対しては、被害が見受けられる署では被害木調査をやっている。

<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リタートラップの分析で、今のところ虫の中身は調査していないが、検討させていただく。</li> </ul>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・糞が多ければ異常値で示されるので、捨てないで測定してもらいたい。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気温、地温、最大積雪深について、今後の見通しはどうか。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 加賀調整官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最大積雪深について、項目としては今のところ考えていない。毎年やっている調査の中で積雪関係の部分も調べてみる。</li> </ul>
<p>議題 2 資料 2-1～4 (ニホンジカへの対応) 説明</p>
<p><b>東北地方環境事務所 藤井保護官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白神山地周辺のニホンジカの日撃情報について、藤里町で 2015 年 6 月 4 日に不明 2 頭、2015 年 6 月 10 日にオスが 1 頭、不明が 1 頭撮影されている。</li> <li>・2015 年 8 月 21 日、深浦町でオスが 1 頭、目撃情報で確認されている。</li> <li>・平成 27 年度、青森県で 18 件 18 頭、秋田県で 16 件 21 頭目撃情報が入っている。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 加賀調整官：&lt;資料 2-1 の説明&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・定点カメラによる哺乳類調査について、平成 27 年度は青森側 25 台、秋田県側 25 台カメラを設置して調査を行っている。「ニホンジカ影響調査・簡易チェックシート」による調査は平成 27 年度も実施している。</li> <li>・早池峰山周辺地域のシカ生息状況等調査については、平成 27 年 5 月 20 日から GPS 首輪を装着したシカの行動圏等調査を実施中である。平成 27 年度は新規に 2 頭実施中で、今後 2 頭追加予定である。</li> <li>・林道除雪による捕獲支援については、1 月から 2 月に実施予定である。</li> <li>・森林鳥獣被害対策技術高度化実証事業については、6 月 24 日から植生被害調査を実施中である。林野庁の方では GPS を装着したシカの行動圏調査と捕獲が計画されている。</li> <li>・鳥獣被害対策協議会等、地域の連携については捕獲支援を実施する予定となっている。</li> <li>・鳥獣被害対策及び狩猟に関する講習会については、7 月 23 日宮城県大崎市においてニホンジカ被害の現状と対策等について開催している。</li> <li>・東北ブロックにおけるニホンジカの被害対策に関わる意見交換会を、7 月 24 日に盛岡市で開催、意見交換を行った。</li> </ul>
<p><b>東北地方環境事務所 藤井保護官：&lt;資料 2-1～3 の説明&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自動撮影装置によるニホンジカ生息状況調査で、環境省はカメラを 25 台設置しており、平成 27 年度は総計 75 台設置している。</li> <li>・目撃情報の集約を平成 27 年度も実施する。シカ対策の基礎データは、北東北、青森、秋田、岩手の生息情報を県の自然保護課から提供してもらい GIS で管理している。東北森林管理局が実施しているチェックシートの情報も全て県の自然保護課の方に行くようになっており、</li> </ul>

こちらも含め情報の集約をしている。

- ・ニホンジカ対策普及啓発チラシの増刷・配布を行っていく。
- ・シカを捕獲するための体制を地元関係者と協働で構築し、将来的な個体数調整に備える必要がある。平成 27 年度、環境省で白神におけるニホンジカの捕獲方針案を検討していく。
- ・ライトセンサス及びヒアリングを実施する。これら調査を踏まえ、白神における捕獲方針案を検討していく。
- ・ライトセンサスについて、専門業者に発注を行い、業者の協力を得ながら白神における捕獲方針を検討していく。
- ・ライトセンサスを実施する場所は 2 カ所検討をしている。1 カ所目は青森県深浦町の日本海沿岸周辺、2 カ所目は秋田県側の藤里町。いずれも遺産地域外である。遺産地域内は 4m 程度の積雪が観測されており、積雪期のシカの生息は考えにくい。遺産地域内での捕獲は現実的でない。白神での捕獲は越冬地をたたくのが効果・効率的。ニホンジカの越冬地となりそうな、冬場にも目撃情報のある場所というところで、絞り込みをかけて実施していく。
- ・ライトセンサスの実施時期は 10 月に 1 回、12 月から 2 月の間に 1 回、合計 2 回を想定している。
- ・ヒアリングの実施については、地元の猟友会へのヒアリングを想定している。
- ・今回の業務で検討した方針は、将来的には白神山ニホンジカ対策方針（骨子）へ反映し、地域連絡会議全体で取組む内容となる。

**青森県自然保護課 関口主幹**：＜資料 2-1～2 の説明＞

- ・センサーカメラは 100 台のうち 88 台を設置したい。市町村等に貸与する形で設置し、1 カ月に 1 回程度データ回収を考えている。
- ・ニホンジカ生息状況モニタリング調査について、三八地域を中心に糞塊糞粒調査、ライトセンサスによる生息密度や分布を調査したいと考えている。
- ・ニホンジカ予察捕獲モデル事業について、三八地域を中心に実施したいと考えている。実施時期は冬期狩猟期間に入ってからを想定している。
- ・中長期的な対応として、青森県ニホンジカ管理対策検討科学委員会を平成 27 年度設置し、1 回目の委員会を開いた。2 回目以降は青森県が中長期的にどのような対策を立てていくか決定していきたいと考えている。

**秋田県自然保護課 上田主査**：＜資料 2-1 の説明＞

- ・ニホンジカ生息調査について、県内の 13 市町村で 9 月から 11 月に密度調査をする。
- ・県内 6 地区にセンサーカメラ 20 台を設置して監視を行っていく。
- ・若い狩猟者の確保を図るため、8 月 23 日に「狩猟の魅力まるわかりフォーラム」を県立大学で開催した。
- ・中長期的な対応として、鳥獣保護管理法に基づいた管理計画を策定中である。

**東北森林管理局 加賀調整官**：＜資料 2-4 の説明＞

- ・「森林におけるシカ被害対策について」を参考資料で配布した。

<p>議題 2 資料 2-1~4 質疑応答</p>
<p><b>幸丸委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「早池峰山周辺地域のシカ生息状況調査」の中で GPS 首輪を装着して調査中とあるが、データは取れているのか。</li> <li>・「ニホンジカ捕獲方針業務」について、個体数をコントロールするための捕殺なのか、行動を把握するための生け捕りなのか。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、調査中ということだ。</li> </ul>
<p><b>幸丸委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GPS からデータは取れているのか。</li> </ul>
<p><b>堀野委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 26 年度は 2 頭つけてデータは取れている。ただし、シカが越冬のため早池峰山の地域から離れていった後はデータが途切れてしまった。平成 27 年度は基地局を複数にして広い範囲を取れるようにするということだ。</li> </ul>
<p><b>東北地方環境事務所 藤井保護官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この業務は個体数調整を目的としている。</li> </ul>
<p><b>田口委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2 頭では少ないので、もっと数を増やした方がいいのではないか。駆除のための捕獲ではなく、DNA サンプルを採り、母集団がどこかというのを裏づけていく。白神山地の北側、深浦側、南側の個体と同じ出自なのか違うのか早く突き詰めた方がいいのではないか。</li> <li>・シカの実験個体がどういう環境を好むかということ把握した方がいい。DNA サンプルも採った上で、どこをカバーすればいいか、一定の地域の最初の個体たちを捕獲して、この実験個体の個体がどの辺の環境を好んで姿を見せているか把握すれば、手法も絞られてくるのではないか。</li> </ul>
<p><b>堀野委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産地域の東側、秋田・青森県境沿いに自動カメラが 2 台から 3 台あるが、もう少し増やしてもいいのではないか。</li> <li>・秋田と青森のシカは岩手起源と考えていいのではないか。</li> <li>・シカとカモシカの糞を区別しないといけないということで、森林総研で糞の DNA を分別して識別するという方法を開発した。</li> </ul>
<p><b>幸丸委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンプル採取のため、シカの死体は保存されているのか。</li> </ul>
<p><b>青森県 関口主幹</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北里大学に耳のサンプルを送って DNA 調査に来てもらったが、西津軽郡と下北以外は大体岩手県のだろうということが分かった。西海岸と下北ではシカの死亡個体を発見した場合は、耳のサンプルを送ることになっている。最近、深浦町のシカのサンプルを送った。</li> </ul>

<p><b>秋田県 上田主査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平成 22 年に県内で捕獲された個体を北里大の岡田先生の所に送ったが、これも岩手県由来だと聞いている。平成 27 年、大仙市で保護した後に死亡したシカの耳片のサンプルを岡田先生の所に送った。</li> </ul>
<p><b>堀野委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>岩手の五葉山に残っていたシカが増えて、こちらにも来ているということは間違いないと思うが、母系集団まで分析をしていけば、経路移動が分かるのではないか。</li> </ul>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>幼獣の確認は正確にあるのか。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ないという理解だ。</li> </ul>
<p><b>堀野委員：</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>少しずつ出てくるという恐れはあると思う。</li> </ul>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライトセンサスで撮影するとオス・メスは分かるのか。</li> </ul>
<p><b>堀野委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目だけでは分からない。</li> </ul>
<p><b>東北地方環境事務所 藤井保護官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ライトが強力なので個体判別もできると聞いている。</li> </ul>
<p><b>田口委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シカ問題を最終的にどうするか決めておいた方がいいのではないか。特定鳥獣保護管理の議論の延長で白神をカバーするというのでいいのか、特別な状況に持っていき維持したいのか、その辺の議論も用意しておいた方がいいのではないか。</li> </ul>
<p><b>蒔田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先ほど先発隊という言葉があったが、本隊をいかに少なくして、その上で白神に入ってくるものをどう止めるか 2 段階考えておくべきではないか。</li> </ul>
<p><b>堀野委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>シカは人の力で抑えるのが非常に難しい動物であることを考えると、この世界遺産地域の中にシカは入れない。入ったものは排除するという前提で取り組んでちょうどいいと感じている。</li> </ul>
<p><b>田口委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>完全にプロテクションするとなれば人もお金もつぎ込まなければならず、相当やっかいだ。そういうことも含めて、白神の世界遺産地域の持続性をシカ問題に関してどういうふうに見えるか、議論を今の段階から準備しておいていただきたい。</li> </ul>
<p><b>幸丸委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>白神の生態系というのはシカがいない状態で認められているところではないか。白神の世界</li> </ul>



遺産の価値を維持するためには、どういうふうにやっていくかということだ。
<b>堀野委員</b> ・排除するつもりでやって、なんとか低リスクに抑えられるというのが現実ではないか。
<b>由井委員</b> ・シカは、冬は絶滅状態で、春から秋までの間にどれだけ外から入ってきて食いつくすか、それをある程度シミュレーションでやりながら、シカの進出速度と合わせていろんな対策を考えおくのもいいのではないか。 ・シカが来ても、ササだけ食べた段階で駆除して、後はブナの実が落ちてすぐ更新するという使い方もあるかもしれない。入ってきたところでは柵で囲うしか植生は守れないところもある。人間側も順応的管理を含めて考えてはどうか。
<b>堀野委員</b> ・抵抗性の獲得はたぶんないと思う。
<b>中静委員長</b> ・科学委員会としては、これまで通り白神にはシカは入らないことが望ましいという方針でいきたい。
<b>檜垣委員</b> ・地元の狩猟者の確保はどうなのか。
<b>東北地方環境事務所 佐々木課長</b> ・深浦町、藤里町、地元猟友会に今抱えている課題をヒアリングして、行政側の支援等を考えていきたい。
<b>東北森林管理局 大貫次長</b> ・猟友会だけでは難しい問題だ。個体数調整を念頭に置き、効果的なとり方をしていくことは極めて有効である。
<b>田口委員</b> ・狩猟では地形を覚えるまで 10 年はかかるので、即戦力は求められない。事故だけは起こさないでほしい。 ・よそからの人間が入るのは難しい。
議題 3 資料 3-1~2 (入山利用への対応) 事務局報告
<b>東北森林管理局 加賀調整官</b> : <資料 3-1~2 の説明> ・合同パトロールによる遺産地域の踏査ということで、8月1日、青森県側で実施した。9月に、第2回目を青森県側、秋田県側それぞれで実施する。 ・二ツ森登山道及び山頂部付近の現状維持のための刈り払いを計画中である。
<b>東北地方環境事務所 藤井保護官</b> : <資料 3-2 の説明> ・職員、鳥獣保護区管理員、請負契約による巡視を行っている。 ・影響把握のためカウンターを設置し入山者の把握を実施している。 ・子どもパークレンジャー事業を実施しており、平成 26 年度は 8 月に青森県側で 2 回実施した。

<p><b>青森県 村松総括主幹</b>：＜資料 3-2 の説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白神山地世界遺産地域で西目屋村 2 名、鱒ヶ沢町 2 名、深浦町 2 名、巡視員が入っており、延べ 228 日巡視している。</li> <li>・自然観察歩道のササの下刈り、看板の補修等を行っている。</li> <li>・西目屋村暗門の散策歩道が整備され、7 月 11 日に西目屋村でオープニングセレモニーを行った。</li> </ul>
<p><b>秋田県 上田主査</b>：＜資料 3-2 の説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白神ガイドのレベルアップ講習を実施している。</li> <li>・緩衝地域等の利用促進のため、新たな散策コース開設へ働きかけを行っている。</li> </ul>
<p><b>西目屋村 工藤係長</b>：＜資料 3-2 の説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西目屋村の若手のガイド育成のための知識や技能の継承を促す活動を行う。</li> <li>・「暗門の滝歩道」と「世界遺産の径 ブナ林散策道」を活用した啓発活動の実施を行う。</li> </ul>
<p><b>藤里町 川村課長</b>：＜資料 3-2 の説明＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 25 年 8 月の集中豪雨で小岳、駒ヶ岳、岳岱のアクセスが壊滅的な被害を被った。岳岱に代わる散策コースとして、粕毛林道周辺の抱合沢、樺岱登山コース内にあるブナ平、里山の水無地区にあるブナ林を新たなコースとして考えている。</li> </ul>
<p>議題 3 資料 3-1～2 質疑応答</p>
<p><b>檜垣委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白神山地全体として人が入れるという情報をもう少し整備することができないのか。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・秋田県側で核心地域を見て回る試みはないのか。</li> </ul>
<p><b>秋田県 上田主査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の段階ではない。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視員の若手を育てるというのはどうか。</li> </ul>
<p><b>秋田県 上田主査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の段階では先輩の巡視員に同行して核心地域を歩くという形で巡視活動をされている方もいる。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・核心地域を分かっている人たちがいないと将来的な維持は難しいので、ぜひお願いをしたい。</li> </ul>
<p><b>田中委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視する人によって見ているものが少しずつ違うので、重要な注目点については共通してデータが取れるような基準づくりが必要ではないか。</li> <li>・たとえば、ブナの結実がある年とない年があり、開花も年によって変動する。巡視員が広く見回れた時にそれを客観的に記録するというような調査票の整備が今後必要ではないか。</li> </ul>

<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県や林野庁共通のフォーマットのようなものはあるのか。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 関口部長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的に巡視員にはマニュアルを配布するが、ブナがどうのこうのというところまでは書いていないはずなので検討させていただく。</li> </ul>
<p><b>蒔田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡視員の方がどういうルートをどれぐらい歩いているか集計されたものはあるのか。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 関口部長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どこにどのぐらい行ったという資料はある。</li> </ul>
<p><b>田口委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人材不足に関しては、大学などの教育機関を利用できないのか。芸工大では若い人たちに地域に興味を持ってもらうためにフィールドワークを授業で行い、その地域の人たちと交流しながら、学生を育てるというコンセプトでやっている。</li> <li>・国立大学の先生方と協力し合って、大学の授業として白神を使い、そこで単位ももらえる。地域の人たちと触れ合ったり白神を理解したりすることで、青森県、秋田県に住み始める若者が出る可能性もあるのではないかと。若者を定着させるような1つの動きみたいなものをつくり出すことを準備し始めた方がいいのではないかと。</li> <li>・山岳に関して、引退した猟師などを活用できないか。サーベイ地図等を作成する作業に学生たちが参加していくことで地域と密着していく。長期的な展望で、若い人たちが残ってくれるような細工を仕掛けていく必要があるのではないかと。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 関口部長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そういった仕掛けは改めて検討させていただきたい。大学の先生にもそこら辺を相談させていただきたい。</li> </ul>
<p><b>檜垣委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方国立大学も地域貢献の一つとして、地方に定着率を増やし、就職してくる方針ということはかなり強く言われている。学生にそういう道筋をつけておくのも今からだと考えている。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白神山地のより良い管理をしていく上で人材は欠かせないと思う。</li> </ul>
<p><b>蒔田委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・最終的にはその中の何人かでも生活できるようなガイドツアーなり仕掛けなりを視野に置いた上で考えることが大事だが、安全に山を歩けなければならないので、普通のガイドとは違うというハードルを踏まえなければいけないのではないかと。</li> </ul>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマガイを見に行くツアーは難しいが、イヌワシについては、営巣地よりかなり離れて見る分には構わないのではないかと。青森イヌワシ調査会とも相談して、安全な場所を相互に協議してツアーを組むことも考えてはどうか。</li> </ul>

<p><b>幸丸委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・私の専門学校はハンターの養成もやっているが、10人とかある程度の数になるにはちょっと時間がかかる。そうなった時に、どういうふうに入れて貰えるのか。</li> <li>・場合によっては派遣労働事業で対応しようかと思っている。</li> </ul>
<p>議題4 資料4-1~2 (ナラ枯れ発生時の考え方) 事務局報告</p>
<p><b>東北森林管理局 加賀調整官</b>：&lt;資料4-1~2の説明&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年度秋田県内のナラ枯れ被害が増加傾向にあることから今後注視していく。</li> <li>・平成26年度は、平成25年度に比べて国有林のナラ枯れ被害木が増加している。</li> </ul>
<p>議題4 資料4-1~2 質疑応答</p>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナラ枯れについて科学的にどう評価するのか。地球温暖化とともに北上している気配がある。核心地域内において、ミズナラの自然木が地球温暖化のせいで枯れていくのは看過できない。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遺産地域で何かをするというのは相当大変なので、できるだけ遺産地域に及ばないようにやっていただきたい。</li> </ul>
<p><b>東北森林管理局 加賀調整官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成24年度策定した白神山地世界遺産地域モニタリング計画において、モニタリング成果の評価は5年で1回程度を基本とするということで記載になっている。平成24年3月に策定しているので、29年3月見直しというような形で、今後進んでいかなければならない。</li> </ul>
<p><b>中静委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリング活動としてなされていないものを今後どういうふうを考えるのか。カルテを出してもらうことになっているが、それが十分出ているのかどうか。平成28年度を目途に、出していないものについてできるだけ集めていただきたいと考えている。</li> </ul>
<p><b>由井委員</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成26年から27年にかけて、何カ所ぐらいでクマガラの鳴き声や姿の確認があったのか。</li> </ul>
<p><b>東北地方環境事務所 藤井保護官</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・クマガラを目撃情報、鳴き声に関しては1件も入っていない。</li> </ul>
<p>閉会</p>
<p><b>東北森林管理局 関口部長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニタリングについては限られた予算の中で、有意義に実施していくための工夫等について議論していきたい。</li> <li>・シカに関して、いなくするつもりでということは共通認識なので、そのつもりで頑張りたい。</li> <li>・秋田、青森ではシカをとる人間が減ってきているので、森林組合の人等に、わな等を用いてシカをとることを考えてもらってもいいのではないかと。</li> <li>・入山利用に関して、まずは緩衝地域の利用ということで、各自自治体と話し合いをしながらやっていきたい。巡視員の基準づくりも議題等にしていきたいと考えている。</li> </ul>